

我が象徴のマーキュリー

校長 鈴木 恵 一

縁（えにし）に感謝

「けーちゃん、啓北のコーチョーセンサーになったの？おめでとう！頑張っ
てね～」

齢を重ねるほどに教え子達から励まされる機会が増えていく。師と徒の立場
はいつか逆転することを実感。それにしても、よもや啓北に再着任する回数ま
で増えるなどとは思ってもいなかった。別れと出会いの交差点である三月・四
月、淋しさと不安と期待が交錯するなか、平成五年に教諭として着任し、その
後、教頭として、さらに校長として再びこの学舎で生徒・保護者・教職員と共
に人生の新たな物語を紡いでいくことに感慨を覚えている。

啓北の校歌には、私の座右の銘がたくさんちりばめられている。「誠の道に励
まん」と初めて口ずさんだ日から四半世紀、老いてますます励めよと勇気を
授けてくれる我が象徴のマーキュリーに感謝し、そして啓北を卒業した愛すべ
き教え子達の励ましに感謝。

誠の道

スポーツ界が揺れに揺れ、学校教育の部活動のあり方まで問われている。全
校集会で生徒諸君に話したが、勝負事でてっぺんに辿り着くことができるのは、
たった一人、たった一チームしかない。あとはみんな負けている。勝ち負けや
成功・失敗はいずれも人生の宝になる。どんな結果も心持ちで人生の物語は上
書きし成長できるもの。

いまを生きる君よ、高校生活のどこに価値を置こうか。小さな失敗を幾度も
経験し、そのたびに挫けそうになるけれど、自分の心としっかり向き合うこと
から逃げてはいけない。本当の失敗とは、転んでも立ち上がろうとしないこと。
失敗を恐れるあまりチャレンジすることを避けていると、逆に失うものが大き
くなる。まずは弱くて臆病な自分、ダメな自分を受容しよう。自分の弱さに気
付くこと。気付きはすべての出発点。気付きは「やる気のスイッチ」を押し、
新たな価値を生み出してくれる。価値は価値を見出そうとする者の中に宿る。

「誠の道」は険しそうに感じるけれど、自信を持って（自分を信じて）、日常に
存在するほんの少しの勇気でできることを重ねていくことなんだよ。

保護者の皆様へ

七月の啓北祭では多くのPTA会員の皆様にご協力を賜り改めて感謝申し上げます。

学祭は本校のSPHが標榜する「マネジメント能力の育成」を補完する貴重な機会です。生徒達は共に手を携えて準備・本番に臨み、関係性の糸が繋がり結ばれ、時にもつれ、時にほどけたりしながら人間関係調整能力の大切さを学びます。

親は子どもの成長を願って力が入ることもありますが、子どもの育ち、人の成長を概観すると、むしろ親の管理下外で体験することが育ちに大きな影響を与えていることがわかります。それだけに学校教育の責任の重さも感じているのですが、最近では、親や教師との「タテの関係」や友達との「ヨコの関係」以外に、「ナナメの関係」（先輩や社会の大人との関係）の重要性が説かれています。地域との連携もその機会となります。皆様には今後ともご理解とご協力をお願い申し上げます。